

ベトナムの初等教育向け国定教科書の開発について

栗原幸則・ゴ ミン トゥイ・ダオ ティ ガァ ミー・チャン キエウ フエー・
ファム ティ トゥ ハー・ホアン トゥ チャン・佐藤修

1. はじめに

国際交流基金の2015年度海外日本語教育機関調査（以下、機関調査）では、ベトナムの日本語学習者数は64,863人となり世界では第8位、東南アジアではインドネシア、タイに次いで多い。学習機関および教育段階別にみると、学校教育以外が半分以上を占め、次いで高等、中等、初等の順となっている。

学習者数の伸び率で見てみると、日本語学習者数上位10か国の中ではフィリピンに次ぐ伸びを示し、2012年度機関調査と比べて1.4倍にもなっている。日本語能力試験の受験者数も2016年度には58,502人と東南アジアで最も多く、2011年度の14,317人と比較して4倍以上の大幅な増加が見られる。この伸びの主な要因は、日越両国の良好な関係に支えられた日系企業の経済活動の進展とベトナム政府による教育政策にあると思われる。

中等教育段階では2003年に課外授業としての日本語教育が開始された⁽¹⁾が、これに続きベトナム政府は、国家政策「2008-2020年期国家教育システムにおける外国語教育・学習プロジェクト⁽²⁾」（以下、プロジェクト2020）において小学校3年生から外国語教育を取り入れることを決め、2016年9月よりハノイとホーチミンの5つの小学校で初等日本語教育を開始した。英語と同様に日本語を第一外国語として位置づけ、週4コマの授業を行うこのプロジェクトは東南アジアでは他に類例を見ない。国際交流基金ベトナム日本文化交流センターはプロジェクトの立ち上げ時よりカリキュラム作成、教科書開発、教師を対象とした研修会の実施、巡回指導等の支援を行っており、筆頭執筆者も業務の一環として、2013年から2017年にかけて初等教育向け国定教科書の開発に携わってきた。本稿は、ベトナム側の教科書作成メンバーと協働し進めてきたこの教材開発について報告し、初等日本語教育分野への一提言を試みるものである。

2. 初等教育向け国定教科書開発の背景

2.1 ベトナムの教育制度と外国語教育政策

日本の教育制度は小学校から大学にかけて6.3.3.4制であるのに対し、ベトナムは5.4.3.4制である。初等教育は1年生から5年生が通う小学校5年間の教育を指し、中等は6年生から12年生が通う中学校と高校を指す。

プロジェクト2020では、2016年に小学校3年から第一外国語としての日本語科目の提供⁽³⁾を開始し、これを2019年には中学校、2023年には高校へと進展させていくとしている（資料1）。以下、本節では、ベトナムの言語教育政策の展開に照らしながら、初等段階の日本語教育の現状と到達レベルの目安、教科書の特徴に焦点を当てる。

2.2 初等教育段階への日本語教育の導入（2016年～）

2008年にベトナム教育訓練省により公表されたプロジェクト2020及びグエン・ティエン・ニャン副首相が2016年2月に調印したベトナムの初等教育への日本語教育の早期導入に関する日越両政府間の合意書により、プロジェクト2020の一環⁽⁴⁾として、小学校にも日本語教育が導入されることになった。2016年9月の新学期より、東南アジアでは初となる初等教育段階における第一外国語としての日本語教育がハノイとホーチミンにて始まった。

表1 日本語教育を行っている小学校（2016年度時点、3年生1学年のみ）

地域	機関名
ハノイ	チュー・ヴァン・アン小学校
	コン・トゥオン小学校
	グエン・ズー小学校
	ゲートウェイ小学校
ホーチミン	ベトナム・オーストラリアインターナショナルスクール

2016年9月からの初年度が2017年5月に終了した時点で約350名の小学3年生が1年の日本語学習を修了している。

2.3 ベトナムの外国語能力基準と教育段階別の到達目標

2014年11月にベトナム教育訓練省により公表された「初等中等教育における日本語教育 小学校、中学校、高等学校の日本語カリキュラムーベトナム外国語能力フレームワークに基づいて」⁽⁵⁾には、高校の日本語プログラムを終えた段階の学習者のレベルは同書で定められた「ベトナム外国語能力フレームワーク」（資料2参照）のレベル3、中学校卒業時はレベル2、小学校卒業時はレベル1に到達することを目標とすると記され、さらに、初等中等教育における全体の目標は「学習者に日本語でのコミュニケーション能力を備えることと現代の国際化環境でコミュニケーションできる必要な知識を提供すること（p. 20）」となっている。

3. 初等教育段階向けの教科書開発

3.1 初等教育段階における日本語教科書の必要性和特徴

ベトナムの初等教育向け国定教科書の開発について

一般的に年少者への語学教育という場合、歌を歌う、折り紙を折るなどの文化的要素を主に行うケースが少なくないが、プロジェクト2020の日本語教育は第一外国語という位置づけであり、学習時間数も到達目標も英語教育の場合と横並びとなる⁽⁶⁾。しかも上述のように高校卒業までの10年間を見通した学習設計が必要になる。そのため、小学校への日本語教育導入に先立ち、第一外国語教育としての年少者向け教材の整備が強く意識され、ベトナム教育訓練省は2008年から5年の準備期間を経て、2013年より本格的に初等向けの国定教科書の開発に着手した。下表2にその特徴を示す。

表2 ベトナムにおける初等教育段階の日本語教科書の特徴

使用対象者	初めて日本語を学ぶベトナム人小学生（3～5年生）
小学校卒業時の到達レベル	ベトナム外国語能力フレームワーク レベル1（CEFRのA1に相当する、日本語能力試験N5に満たない初歩的なレベル）
技能	「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能を伸ばすが、特に「聞く」と「話す」に重点を置いている。
学習項目	文型・表現：42 語彙：1000 文字：ひらがな・カタカナ（3年）、漢字150字（4年50字、5年100字）
学習時間数	授業時間：1コマ40分 3年生：週4コマ×年35週＝140コマ（93時間） 4年生：週4コマ×年35週＝140コマ（93時間） 5年生：週4コマ×年35週＝140コマ（93時間）
特徴	<ul style="list-style-type: none">・語学として日本語を学ぶことに加え、社会で生きるための態度や問題解決の力、仲間と協力する態度、創造力を養う要素が盛り込まれている。・異文化への理解を深めると共に、自文化への意識を高める要素が盛り込まれている。・経験の浅い教師も含め授業活動を行いやすくするために授業用音声付スライド、絵カードが用意されている。・1クラスあたりの学習者数：35名を超えないこととする。・教科書で扱う主なテーマ： 生活：挨拶、家族と友達 学校：友達と先生、クラス、スケジュール 自然：天気 社会：文化

3.2 教科書開発チーム

教材作成はベトナム側が中心となり、日本側はそれを側面支援している。教科書作成メンバーとしてベトナム教育訓練省に任命されたハノイ国家大学外国語大学の教員5名は全員、国際交流基金の海外日本語教師研修に参加経験がある。

3.3 教科書開発の方針

教科書開発にあたっては、前掲「初等中等教育における日本語教育 小学校、中学校、高等学校の日本語カリキュラムーベトナム外国語能力フレームワークに基づいてー」にて「初等中等教育における日本語教育カリキュラム構築の原則」として定められた以下の7点に留意している。

3.3.1 学習者中心

ア) 年少者への配慮

一般に成人より集中力の持続が困難であること、年少者の行動範囲が自宅周辺および学校を中心とした生活圏でありその範囲の話題や語彙使用に配慮すること、また論理的な思考にまだ不慣れな年齢であることに留意した。

イ) 年少者にとって自然な日本語使用

10歳前後の年少者にとり身近な語彙に着目し、無理のない自然な言葉使いや自然な会話となるよう配慮している。例えば小学3年14課「言ってみましょう」では、「虫が好き?」「えっ、嫌い」など年少者が興味を持つ「虫」などの語彙を扱い、自然な会話となるよう配慮している。また、一般の初級教科書では「お父さん」「父」を両者提示するが、この教科書ではあえて年少者が使う身近な語彙「お父さん」に限定している。

ウ) 音声重視

五感の中でも耳を使う聴解活動を積極的に取り入れている。1課の「聞いてみましょう」では「おはよう」「おはようございます」の使い分けを、話し相手、場面等を根拠に聴解活動から類推、発見させ自然な形で使えるよう配慮している。また、歌などを使い、リズムに合わせて日本語に慣れ親しめるようにしている。例えば、小学3年4課で「大きな栗の木の下で」、小学4年4課で「こいのぼり」の歌を紹介している。

エ) 楽しさ

楽しく活動する中で学びを得られるよう、リピート活動であっても年少者の場合には、単にリピートをするのではなく、楽しく体を動かす等の動作を加えている。こうすることでより楽しく、学習内容に対し興味を引きつけ、より長く集中させるようにしている。文法などの説明時には口頭だけではなくできるだけイラストや写真、動画を活用し、楽しく学ぶ環境作りを行っている。

オ) 主体的な学び

教師からの一方的な教えではなく、学習者が主体的に学び取ることを重視している。ペアやグループ活動を用いることでクラスメートとの学び合いを促進し、クラス内でのコミュニケーションの深化を目指している。例えば、情報差・意見差のある易しいインタビュー活動やデ

イスカッション活動等を取り入れることで主体性を引き出している。また、日本やベトナムの文化等に関し保護者にベトナム語で聞き取りを行うタスクでは、校外との繋がりを意識しつつ主体的に学ぶ機会を創り出すと同時にベトナム文化の再発見につなげている。また、未習語彙の意味を文脈やイラストから推測させたり、状況や場面からも例文の中から文法規則に気づき、自ら発見させたりすることで主体的な学びを促している。

カ) 教科横断型学習

社会や理科、算数との教科横断型学習を心がけ、学習者が既に他教科で学んだ知識を日本語の学習の中で生かしている。ベトナムの地理的な知識、四則計算などの算数的知識等を授業中の活動に取り入れることで言語を道具として利用する機会としている。

3.3.2 易から難への配列

内容やテーマ、文法・表現、語彙、タスクやそれらの配分に関しても、学習者の発達に即して難易度、負荷を調整して簡単なものから難しいものへと配列している。ただし、単純な歌やゲームに終始するのではなく、知的な好奇心を満たすことも考慮に入れている。

3.3.3 螺旋を描く発達過程

交流会や日本人宅訪問など、学年が上がっても同じ場面を扱い、それまでとは異なる表現や語彙を加えていくことで、日本語能力を発展させていく。また同一場面を繰り返すことで復習し、応用力をつけ定着を図るだけでなく、その場面に表出する語彙、表現をより深化させている。低学年では行動範囲や語彙、表現も少ないが、学年が上がっていくにつれて扱える語彙、表現が増えていく。

3.3.4 コミュニケーションニーズに合わせた言語知識の導入

10歳前後の年少者に適したコミュニケーションを意識して、社会言語的要素を尊重し、現実生活に即した状況を設定している。そのような場面の Can-do 文による行動目標に合わせて、目標学習項目という知識内容が導入される。もちろん、自然な表現・言い回しにすることと、学習の負担を減らすべく可能な限り簡潔な文にすることとのバランスも取らなければならない。

3.3.5 四技能の総合的な育成

聞く活動と話す活動を主としながら、適宜、読む活動と書く活動も挟むことで四技能が総合的に育成できるように工夫している。例えば、小学4年第1課には時間割から必要な情報を選別して読み取る活動が、第6課には誕生日カードを書く活動がある。

3.3.6 各教育段階の連続性と継続性

カリキュラムに小学校、中学校、高校という各段階の連携性、継続性を持たせる。こうした「縦のアーティキュレーション」⁷⁾を確立することで、高校卒業時に上述のレベル3に到達することを旨とする。

3.3.7 到達レベルの設定

カリキュラムの全体目標、各段階・各年次・各学習レベルの到達目標を具体的に設定している。これにより、プログラムの目標や内容、評価基準を明確に設定できる。

3.4 各課の構成

上記7つの方針に基づきデザインされた初等教育向け国定日本語教科書『にほんご』(3-5年生)の各課は、基本8ページで構成される。

図1に示すように、「学習目標」の確認に始まり、「話しましょう」で課のテーマについて興味を活性化したあとは、日本語の文型・表現・言葉の導入、練習、モデル会話のバリエーション練習「言ってみましょう」、仕上げの応用練習「やってみましょう」に進む。「遊ばみましょう・話しましょう」は日本文化の紹介等を通じ異文化に触れ、自文化を見つめ直すことを狙う。最後の「振り返りましょう」では課の学習の自己評価を行う。

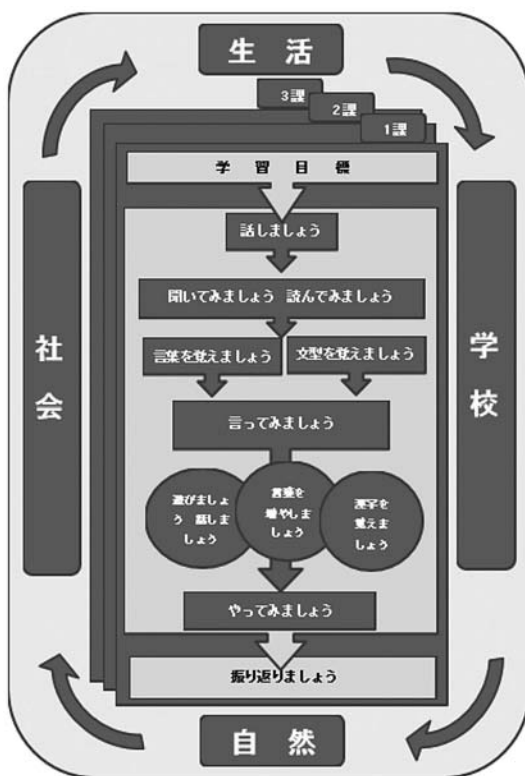


図1 課の構成イメージ (4年生の例)

4. おわりに

新たな教科書の誕生には多くの労力がかかるが、教師にとっては、新たな教科書は、内容や構成、時間配分などその教科書を使った授業に慣れるまでには多くの時間を要するものであり、教師に対するケアこそ大切である。今後も3年生から12年生の全10冊の教科書が完成するまでの間、そしてその後も教科書の基本的な使い方などの研修会を行い、現場教師へのフォローを続けることは、日本側の支援・協力機関である国際交流基金に課せられた重要な業務である。

今回は国定教科書の開発に焦点をあてたが、今後は、実際の授業はどうだったか等、試用の

手ごたえや感想についてのアンケート調査を通じ、生徒やベトナム人教師からの情報を得、ベトナムの初等日本語教育について報告したいと考えている。

〔注〕

- ⁽¹⁾当初は課外授業としてだったが、数年後には第二外国語科目としても提供されるようになった。
- ⁽²⁾ベトナム教育訓練省 (2008) 「2008-2020年期国家教育システムにおける外国語教育・学習プロジェクト」 (Số 1400/QĐ-TTg “Dạy và học ngoại ngữ trong hệ thống giáo dục quốc dân giai đoạn 2008 - 2020”)。このプロジェクト2020は、プロジェクトの目標を「ベトナム人若年層に外国語による意思疎通に自信をもたせ、多言語、多文化的環境で勉学、就業できる機会の可能性を広げ、さらにベトナム人民に外国語における優位性をもたせることで、国家の工業化、近代化への貢献を図ること」としている。この目標を達成するために、大学や職業訓練学校、3年次から12年次を対象とする初中等教育、その他における外国語教育強化プログラムを実施することが掲げられ、その具体的な方策として、運営評議会の設置や計画・訓練プランの構築、外国語教育機関の基盤整備、各教育機関の学習機材への投資、国際連携の強化、公教育以外の学習環境の整備が挙げられている。このプロジェクトの計画運用期間は2020年までとなっているが、小学3年生から高校12年生までの10学年の教科書作成は10ヵ年計画で続いていくため、実質2026年ごろまでプロジェクトが推進される見込みである。
- ⁽³⁾プロジェクト2020は、既存の第二外国語としての教育を第一外国語としての提供に置き換えるものではない。そのため、初中等の日本語コースは資料1に示す4タイプが併存することになる。
- ⁽⁴⁾外国語科目としては、英語の他に、フランス語、中国語、ロシア語、ドイツ語、韓国語、そして日本語が含まれており、英語教育については2010年から既に一部の小学校で導入されている。
- ⁽⁵⁾ベトナム教育訓練省 (2014) 「初等中等教育における日本語教育 小学校、中学校、高等学校の日本語カリキュラムーベトナム外国語能力フレームワークに基づいてー」 (“Chương trình giáo dục phổ thông môn tiếng Nhật bậc Tiểu học, bậc Trung học cơ sở, bậc Trung học phổ thông”)
- ⁽⁶⁾英語教育の目標レベルと変わらないことについては、ベトナム教育訓練省 (2006) 「初等中等教育カリキュラム」 (Số:16/2006/QĐ-BGDĐT “Chương trình giáo dục phổ thông”) 参照。
- ⁽⁷⁾「縦のアーティキュレーション」の定義はJ-GAPによる。<<https://j-gap.wikispaces.com>>

〔参考文献〕

- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2006) Số:16/2006/QĐ-BGDĐT “Chương trình giáo dục phổ thông” <<https://thuvienphapluat.vn/van-ban/Giao-duc/Quyết-dinh-16-2006-QĐ-BGDĐT-chương-trình-giao-duc-phổ-thông-g-55984.aspx>> (2017年8月18日)
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2008) Số1400/QĐ-TTg “Dạy và học ngoại ngữ trong hệ thống giáo dục quốc dân giai đoạn 2008-2020” <http://www.chinhphu.vn/portal/page/portal/chinhphu/hethongvanban?class_id=1&page=18&mode=detail&document_id=78437> (2017年8月18日)
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2014) Chương trình giáo dục phổ thông môn tiếng Nhật bậc Tiểu học, bậc Trung học cơ sở, bậc Trung học phổ thông
- J-GAP (Japanese Global Articulation Project) <<https://j-gap.wikispaces.com>> (2017年8月18日)

資料1 ベトナムにおける初中等教育段階での日本語教育4分類

	小学校 3年生から5年生	中学校 6年生から9年生	高校 10年生から12年生
第1タイプ 小中高一外	第一外国語 週4コマ (2016年9月から)	第一外国語 週3コマ (2019年9月から)	第一外国語 週3コマ (2023年9月から)
第2タイプ 中高一外	なし	第一外国語 週3コマ	第一外国語 週3コマ (一部、語学専門高校は5-11コマ)
第3タイプ 中高二外	なし	第二外国語 週2コマ	第二外国語 週2コマ
第4タイプ 高校二外	なし	なし	第二外国語 週2コマ

資料2 ベトナム外国語能力フレームワーク (2014)

		総括記述
初級	レベル 1	具体的なやりとりの欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いかなどの個人情報について質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやりとりをすることができる。
	レベル 2	個人的情報や家族情報、買い物、仕事、道を聞くことなど基本的なやりとりや受容に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的话题についての情報交換ができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接必要性のある領域の事柄を簡単に説明することができる。
中級	レベル 3	標準的な話し方であれば、仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題についての発表や段落の主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行している時に起こりそうなたいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題についての簡単な文章を書くことができる。経験、出来事、夢、希望、野心について説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
	レベル 4	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやりとりができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
上級	レベル 5	様々な種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えず、流暢にまた自然に自己表現ができる。社会的、学問的、専攻上の目的に応じた柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細なテキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターすることができる。
	レベル 6	聞いたり読んだりしたほぼすべてのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。